

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101879		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホーム 宝寿の里(宝ユニット)		
所在地	栃木県宇都宮市宝木本町1768		
自己評価作成日	平成25年8月2日	評価結果市町村受理日	平成25年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成25年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念のもと職員一同がご利用者と共に生活をしており、年間行事計画など多く計画しております。利用者の高齢化も進み状況に応じた行事内容を取り入れ一年を通じてご利用者には楽しんでいただいております。また、職員一人ひとりが自分の役割を理解し、ご利用者様が満足して頂けるよう日々取り組んでおります。また、専門性の習得にも自主的に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは市北西部の田園地帯に位置し、県道大沢・宇都宮線(通称新里街道)の西側の雑木林に囲まれた場所にある。市役所の出張所や公民館、小学校、中学校等の公共施設も近くにある。同一法人が運営する特別養護老人ホームに隣接している。当ホームの開設は、市内では比較的早い方であり、それに見合ったノウハウが積み上げられている。特に、職場研修や職員一人ひとりの業績評価等により、知識の習得や技術の向上に熱心に取り組んでいる。地域との交流にも力を入れており、地域住民も参加した納涼祭を特別養護老人ホームと合同で実施したり、地元の老人クラブの活動に定期的に利用者が参加するなどして交流を深めている。利用者家族には、定期的にホーム広報紙を活用して、様子を報告したり、家族交流会を開いたりしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ホーム理念は、朝礼にてスタッフ全員で唱和し、共通認識にて一日のケアが始まります。	「ゆったりと楽しく、自由にありのまま、一緒に過ごすケア、暮らしに喜びと自信」というホームの理念を事務室に掲示している。また、毎日の朝礼の時に、職員全員で唱和し、共有化を図っている。さらに、毎年基本方針やケアの目標を定め、具体的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仁宝会に1/2や、地域のボランティアの方に来所して頂いております。また、恒例行事である、8月の地域交流盆踊りへ参加しております。	自治会に加入している。地元の老人クラブ(仁宝会)の活動に、定期的に(2か月に1回)に参加している。毎年8月に、地域住民も参加する納涼祭を開催している。地域の各種ボランティアの訪問・交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に参加することにより、地域の方へ認知症の方の理解を少しずつ伝えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催しており、『国本地域包括・自治会長・管理者・ご利用者』との行事報告や今後の取り組みの内容を提案し話し合いをしております。	運営推進会議は2か月に1回開催している。構成員は地域包括支援センター、自治会長、利用者、管理者等で、行事や今後の取り組みについて、意見交換を行い、サービス向上につなげるよう努力している。	構成員に地域の民生委員を加えることや、内容によっては、警察や消防団等にオブザーバーとして参加してもらうこと、また、利用者家族が参加しやすい日時での開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度や運営等に対しての相談はさせて頂いておりますが、ケアサービスの取り組み等ももう少し連絡を密にとって行くようにする。	制度や運営等でわからないところがあれば、随時、市の担当者に相談しており、市の担当者も積極的に対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員一同周知徹底し、都度確認をしている。夜間・緊急時【一時的】のときは、鍵をかけている。	代表者、管理者は、身体拘束となる行為を正しく理解しており、職員一同に周知徹底をしている。夜間及び緊急時を除き施錠はしていない。言葉による拘束もしないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご利用者様の身体確認等、記録上での状況で確認		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・一部の職員は理解している。外部学習に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要説明書の説明を行い、内容については、ご理解をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会で、意見や要望の話す機会を設け、対応している。また、アンケートを実施し、運営に反映するよう取り組んでおります。	家族交流会を開催し、意見、要望等を聞く機会を設けている。また、年1回はアンケートで家族の意見や要望を集約している。出された意見や要望は、職員会議で検討し、運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者との年数回の話し合いの中でホームでの実践する内容や目標を掲げ意見交換の場を設け、より良い環境づくりに取り組んでおります。	職員会議とは別に、年3回、代表者及び管理者が職員との個別面談を実施している。職員会議や個別面談等で出された意見や提案は、運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や職員のやりがいが持てるような規定で取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での全体会議の研修やチューター研修等(各ユニット1名のチューターを配置)に取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	苑として、他の同業者とのネットワークづくりの構築がされていない。今後は、実施する予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者の行動を見極め、会話の機会を増し、不安状況を出来るだけ抱えない環境づくりに取り組んでいます。アセスメント、モニタリングの実施。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での定期的な状況報告と面会時には、要望・意見交換をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者のニーズに合わせた対応と今後の状況を視野に入れた対応をしています。【例えば、特養への申し込み】		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の態度や行動を理解し、その方に合ったケアをし、同じ目線での対応をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会(年1回)などご利用者の普段の生活状況を見て頂いたり、面会時には、日々の生活状況をお伝えし、共有して頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や馴染みの人を本人や家族の協力を得実施しています。	友人の訪問、買い物など、これまでの馴染みの人や場所との関係を尊重し、家族の協力を得ながら支援している。また、地域の一員として、地元の理髪店やスーパーへ行くなどして交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の趣味や生きがいとする事を把握し、出来るだけ関わりがもてるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は、相談や支援の本人・ご家族の方がおりません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人ひとりの生活状況にあったケアが出来るよう、職員間での情報の収集や共有に努めております。	職員が協力し、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの聞き取りや、表情、反応などから本人の意向を汲み取るようにしている。サービス調整会議を開く等、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報を頂いたものに、日々の生活情報を頂き記入しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用様の個々の一日の状況を記録残し把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー中心職員全員で課題等を話し合いご利用者様お一人おひとりに合ったケアプランを作成しております。	本人、家族の意見を踏まえ、職員全員で課題等を検討し、概ね3～6か月ごとに介護計画を作成している。状況に変化があった場合は、随時見直しを行い、現状に即した介護計画になるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から、職員間での話し合いをし、ケアに活し実践しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの要望があれば、出来るだけ沿えるよう配慮させて頂いております。また、ご家族様からの相談、おむつ券の支援、通院支援、訪問歯科、介護保険の更新の手続き等を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の方の協力を頂き、避難訓練を実施しており、一人外出をされる方のご家族様より了承を得て、駐在所への情報提供を行っております。ご近所の方へ配れるよう写真の保管をしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望、確認により、ホームドクターの往診、訪問看護により事業所との関係を築いております。	本人及び家族の希望、意向を尊重しながら、かかりつけ医の受診を支援している。希望があれば、ホームの協力医の往診が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様のケアの中での気づき等を早期発見に努めホームドクター、訪問看護に情報を伝え相談しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に、第一病院になっております。情報は、看護師または、事務職員とのやり取りで行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のご利用者様のご家族様に情報や状況の相談を電話にて連絡をとり共有した中で取り組んでおります。	入居時に、「重度化した場合や終末期の対応」について、本人・家族と話し合いをしている。また、現実の問題になった場合は、家族等と緊密に連絡を取り、共通理解を得ながらケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑としては、2年に一度救急救命講習全職員に参加することにしており、今年度実施できるよう取り組んでおります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年までは、年に2回全スタッフが避難訓練を行っており、今年度から年3回実施できるよう取り組んでおり、自治会の参加することにより、地域の皆様にご理解いただいたの協力体制を確保。	年3回の避難訓練を実施しており、うち1回は消防署に立会ってもらっている。また、地元自治会に協力要請を行い、今年度から参加していただける方向になっている。また、法人として、備蓄や協力体制は整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の尊厳、プライバシーの確保を十分理解し全職員対応しております。	利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう、職員同士で注意を払っている。特に、トイレの誘導等については、十分に配慮するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えの困難なご利用者様の表情言動を察知し、対応できるよう支援を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様お一人おひとりのリズムやペースを第一に考えて支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の方に来ていただき、ご本人の希望を出来るだけ取り入れ支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員との会話の中で、食べたいものを言っていただき提供できるよう支援しております。中庭での収穫時期には、ご利用者様と一緒に収穫を楽しみ食材として提供しております。また、方付けが出来るご利用者様には手伝っていただいております。	利用者の好みや希望をできるだけメニューに取り入れるよう努めている。主に職員が調理しているが、食後の片づけなどは利用者と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食のバランスを考え、主治医との連携を図り、ご利用者様お一人おひとりの状態を把握し、水分量の確認し対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状況に応じ、毎食後の口腔ケアを実施し、週に一回は、訪問歯科にてお一人おひとりの口腔ケアを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁が見られる様になった利用者様には、トイレの声掛けをしている。排泄介助の必要なご利用者様にはその方に合わせた排泄の工夫でなるべくトイレで排泄が出来るようスタッフは努力しております。	現在、オムツ使用は2名のみで、そのほかの利用者は全てトイレで排泄している。一人ひとりの排泄のパターンをチェックし、必要な利用者には声かけ、誘導を行い支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と訪問看護師と相談をし自然排便が出来るよう取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調管理した上で、出来るだけ希望に応じ入浴を楽しんで頂いております。	入浴は午後に行っているが、希望者には夜間でも入浴できるよう対応している。少なくとも1日おきには入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様お一人おひとりのリズムや体調に合わせて休息の時間を設けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用は、理解しており、その症状や変化を見逃さないように支援しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごと等を考慮し日常生活に喜びが出来るよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	戸外に出られるよう個別に支援しております。また、一泊旅行などご家族様にも参加して頂き実施し支援しております。	買い物や散歩・畑づくりなど、できるだけ戸外に出られるように支援している。年間行事計画の中でも、公園に出かけたり、ドライブ、一泊旅行等を実施するなど、利用者が楽しめるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる利用者様は限られており、その方の要望を聞いた対応をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフの声掛けにより対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感はスタッフの工夫で食事や飾りものを行っております。	共用空間は、利用者にとって不安や混乱を招くような刺激がないように配慮されている。居間、食堂などには、利用者の作品等が展示されており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の意思での行動ができないご利用者様には、スタッフが支援しており、他のご利用者様は、自由に人間関係をつくり楽しんでおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分に合った馴染みのものや、ご家族様に伺い好みのものを活かした生活空間を提供しております。	居室には、ベッド、タンス、机等は準備してあるが、利用者が馴染みのものを持ち込むことは自由であり、それぞれ好みの居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境で生活の支援・できる援助を考慮し支援しております。		